

西暦 2011 年／仏暦 2554 年 5 月 14 日

国連アジア太平洋センター本会議場

- 第 8 回国連ウェーサクの日祝賀式典へのスピーチ

はじこく ふみ
「破地獄の文」

世界連邦日本仏教徒協議会

会長 叡南 覚範

- 第 8 回国連ウェーサク並びに国際仏教徒会議を迎え、とくに今年は 1 2 月 5 日のプミポン・アドゥンヤデート国王陛下の 8 4 歳のご誕生会が合わせて開催されますことを心から祝福申し上げますとともに、 国王陛下の弥栄を壽ぎ奉り、タイ王国の益々なる繁栄をお祈り申し上げます。



- さて、この 3 月 1 1 日に、わが国の東日本を襲った未曾有の、地震・津波・原発事故という、まさに三重苦の地獄図さながらの大災害に際し、世界各国から温かいご援助と、心強いご支援を賜りましたことを衷心より御礼申し上げます。

- タイを含め多くの国々で日本の震災被災地を悼む祈祷法会を行い、犠牲者の冥福を祈ったとのお知らせをいただき、万感胸に迫るものがありました。

- わが国においても、いち早く今上天皇は全国民に向けてビデオメッセージを寄せられ「この国難に対して、取り乱すことなく秩序よく皆が助け合い、いたわり合って、この不幸な時期を乗り越えること。被災者のこれからの苦難の日々を、私たち皆が、さまざまな形で少しでも多く分かち合っていくこと。また、国民一人ひとりが、被災者とともにそれぞれの地域の復興の道のりを見守り続けていくこと」を、お諭しになり、さらに天皇、皇后両陛下お揃いで被災者救援センターへお出ましになり、被災者一人一人にいたわりと、励ましの言葉をお掛けになりました。

- わが国における皇室と私たち宗教者、そして国民との絆は、このようにいつも悲しみも、苦しみも共にする結びの姿にあると申し上げてよいかと存じます。

- ちなみに私が住持としてお預かりしております毘沙門堂は、第 4 2 代文武天皇の勅願により由緒ある門跡寺院として建立され、1 3 0 0 年の歴史を経て、いまなお鎮護国家の重責を担い続けています。

- 比叡山を開かれた伝教大師最澄は、その『願文』の冒頭に――

- 「悠々たる三界は純ら苦にして安きこと無く、擾々たる四生唯だ患いにして楽しからず。
- 牟尼の日久しく隠れて、慈尊の月未だ照らさず。三災の危うきに近づき、五濁の深きに沈む」とお書きになっています。
- これは最澄が19歳か20歳の時に綴られた願文だと言われています。
- 牟尼とは釈迦牟尼如来、慈尊とは未来仏・弥勒菩薩です。三界は苦である。末法の世をどのように生きたらよいのか、あるべきようを問いかけておられます。
- 三災は仏教の宇宙観で、周期的に起こるとされる宇宙的規模の災害（火災・水災・風災）のようです。
-
- 願文は続いて山家学生式を次のように開示されています。
- 「一隅を照らすもの、これ国宝なり／能く言い、能く行なうは国の宝なり／能く言いて、行なうこと能はざるは国の師なり／能く行ないて、言うこと能はざるは国の用なり」
- 「道心あるの仏子、西には菩薩と称し、東には君子と号す。悪事を己に向え、好事を他に与え己を忘れて、他を利するは慈悲の極みなり」
-
- 他人を献身的に愛するということは、他人の苦しみを我が身に引き受けるということに至って極まるのです。このように慈悲行は最澄においてとくに強調されています。
- さらに法華經の教えである「衆生悉皆成仏」を高唱して、菩薩行による人材の育成を主眼とされました。
- 日本には「神仏、人を殺さず」という言葉があります。さらに人間もその他の生物も、物質さえをも基本的には同一の存在であると理解しております。従って、生き物のみならず山や川や岩まで「仏性」があると教えます。仏性とは仏になる可能性のことですが、それぞれが他に代えることのできない尊い働きをする存在である、という意味です。特に日本では「山川草木（国土）悉皆成仏」という考えを好みました。美しい自然に恵まれた日本ならではの思想です。
-
- 法華經の如来寿量品に釈尊が説いておられます。
- 「わが此土は安穩にして、天人つねに充滿せり」「わが浄土は毀れざるに」と。ということは、この娑婆世界がつまりお浄土なのだ、ということです。そして天人がつねに充滿している。そうして、その最後に「つねにみずからこの念をなす。何をもってか衆生をして無上道に入り、すみやかに仏身を成就することを得しめん」（毎自作是念、如何令衆生、得入無上道、

そくじょうじゅぶっしん
速成就仏身) と。

- つまり、どうしてすべての人を仏の世界へ導き、仏の智慧をもって生活できるようにさせたらいいのか、それをいつも考えている、という言葉が出てきます。これは「破地獄の文」^{はじこく ふみ}地獄を破る文と呼ばれていて、仏のみ心がここに最終的に結集されているのです。
- 『スッタニパータ』の中にも「慈しみの経」があります。「光の経」とも言われています。全てを仏にする。仏は大慈悲そのものであり、差別をなくして、生きとし生きるもの全てを仏の世界に入れる。これこそが私たち仏教徒の唯一究極の誓願でありましょう。
-
- 「がんばれ！！日本」皆々様から送られてくる温かい励ましの言葉を真心をもってお受けし、この大いなるご支援に対して立派にお応えできますよう祖国復興のために日本国民の心を一つにして全身全霊を尽くしてまいりたいと存じます。
-
- ご清聴ありがとうございます。

- 叡南覚範
- 世界連邦日本仏教徒協議会会長、
- 国連ウェーサクの日日本委員会会長
- 天台宗毘沙門堂門主

祝辞

国連ウェーサクの日国際祝賀 “社会的・経済的発展における仏教の徳”

ミナー・ピンブル

国連ミレニアムキャンペーン、アジア太平洋地域事務所地域ディレクター

アピシット・ウェーチャチーワ首相閣下、
国連アジア太平洋経済社会委員会事務局長、ノエリオン・ヘイザー博士、
ユネスコ事務局長、イリーナ・ボコヴァ閣下、
賓客の皆様、並びに、参加者、友人の皆様、



国連ウェーサクの日のこの式典に出席し、賓客の皆様や優れた宗教指導者の皆様とご一緒することは本当に嬉しいことです。私は主催者の皆様にお祝いを申し上げますと共に、この特別プログラムに“社会的・経済的発展における仏教の徳”という重要なテーマを選んで下さったことにお礼を申し上げたいと思います。実際、私達が集まって、世界中で前進しつつある社会的・経済的発展に仏教界がどのようにして重要な貢献をすることができるか、について話し合うことが今現在ほど時宜にかなっている時はありません。というのも、世界中の国々の合意で定められた開発目標であるミレニアム開発目標を達成する最終期限の2015年がすぐそこに迫りつつあるからです。

ミレニアム開発目標(MDGs)とは何か。

- ミレニアム開発目標とは、極度の貧困と飢えを撲滅し、すべての少年少女が小学校を修了することを可能にし、両性の平等を促進し、妊産婦と子供達の健康を改善し、HIV エイズの蔓延を減少させ、環境を守り、開発のための世界規模の協力を創り出すために定められた8つの開発目標です。ミレニアム開発目標は、先進国と開発途上国はこれらの目標達成のために共に働くことを求めています。
- 2000年に行われたミレニアムサミットにおいて世界の指導者達によって採択されたこのミレニアム宣言は、1990年代に開かれた様々な世界サミットや会議で発表された多くの公約がまとめられたもので、先進国と発展途上国は相互に依存しあっていることを認めたものとなっています。
- ミレニアム宣言から生まれたミレニアム開発目標の基本原理は、人種、性別、言語、宗教による区別をすることなく、すべての人々の人権と基本的自由を全世界で尊重するという考えです。

国連 ミレニアム開発目標 レビューサミット(再検討サミット)－私達の現在の位置

- ミレニアム開発目標が採択されてから 10 年後の昨年 9 月に、世界の指導者達が国連サミットを開いて再び集まり、これまでのミレニアム開発目標の達成を再検討し、残りの年月で目標達成に向かう歩みを加速化させる方法に関して合意しました。再検討は、貧困の減らし、学校に通う子供の数の増やし、健康を増進させることに関して、多くの国々で目覚ましい進展がみられており、目標の達成はまだ可能である、ということ指摘しています。
- 同時に、私達は、一国内での、また、国と国の間での不平等が広がりつつあるという問題に至急取り組む必要があり、市民社会の諸団体、宗教団体、民間部門を含む全関係者が、そしてすべての人々が国の開発努力における自らの役割を高め、それによってミレニアム開発目標の前進を加速化しなければならないことも再確認されました。

仏教指導者と仏教界はどのようにして関与することができるか。

そこで、このような背景において、仏教界として皆さんは何ができるでしょうか。私は、仏教の徳は開発を促進して貧困と不平等を軽減するための重要な土台を提供することができる、と申し上げねばなりません。仏教の“中道”は、精神性と物質主義のバランスを保ち、分かち合いと思いやりという原理に基づく満足した生活を送るというものです。この仏教の“中道”は、少数者による利己的な富の追求が多数の人々の貧困と飢え、栄養不良、非識字、失業、そして差別の根本的原因であり続けている今日の過度に物質主義的な世界に途方もなく大きな影響を与えるだろう、と私は信じております。

この集まりのこの二日間の討議でこれらの問題は深く取り扱われてきたと確信しておりますので、私はここで討議の内容に入り込むつもりはありません。しかし、ミレニアム開発目標の達成を加速化するための政策支援とキャンペーンの実行担当者として、私は、皆様が組織・団体として行動される時に役に立つ幾つかのヒントをお分けすることで皆様のお役に立ちたいと思います。

- ミレニアム開発目標についての認識を高め、ミレニアム開発目標を効果的に支援するため、皆様の組織・団体の加盟員全員に積極的な役割を担わせて下さい。

行われうる活動には次のようなものが考えられます：

- － 基本的な認識を高めるために皆様の宗教行事の中にミレニアム開発目標を組み込む、あるいは、特別な宗教行事を行う。
 - － 皆様の組織・団体ですでに行われている活動にミレニアム開発目標を結びつける。(例：目標1に関して飢えている人々に食べ物を与え、人々を教育に向かわせる)
 - － 女性は前向きな変化を求める積極的な力となることが多いので、女性を活動に従事させる。
 - － 将来の指導者となる子供達や若者達と一緒に活動する。
- 他の宗教の指導者や団体と協働して下さい。お互いが共有する価値観を認識し一緒に活動することによって、より強力な影響力をもって世界中の何十億の人々の状況を改善することができます。60 億人の世界市民のうちの 50 億人が何らかの宗教に属していると自認しており、宗教団体、宗教

組織は今日の世界において最大の、最も良く組織化された市民組織です。

- ミレニアム開発目標の達成に最終的な責任を持つ皆様の国の政府を支援しその活動を監視して下さい。

考えられる行動には次のようなものがあります：

- － 健康政策、教育政策、および、社会福祉政策に特に焦点を置いて、法律や政策の変化に注意を払う。
- － 政府の予算編成過程への関心を高め、資金の責任ある公平な分配を支援する。
- － その資金が目標とされた受益者に実際に届き最も能率良く効果的な方法で使われることを確実にするための監視システムを地域レベルで作り出す。(例：政府からの資金が自分の地域の予定された学校や病院に届いているかどうかを、また、その資金がこれらの施設のそれぞれでふさわしく使われているかをチェックする)
- － すでに多くの国々で行われているミレニアム開発目標のキャンペーンの効果を高めその到達範囲を広めるために、それらのキャンペーンと市民社会活動を結合させて下さい。
- － マスコミの利用は、どんな支援運動や一般の人々に対する啓蒙キャンペーンにとっても不可欠の要素です。マスコミ報道は皆様の活動の影響を拡大してくれます。

これらは皆様の活動の効果を高める助けとなるほんの 2、3 のアイデアにすぎません。いつの間にか、ミレニアム開発目標達成の最終期限である 2015 年までわずか 4 年となり、私達は時間がなくなりつつあります。私達は、これらの目標の達成を可能にする資源と科学技術と能力を持つ最初の世代です。私達がさらに必要とするのは、富んだ国と貧しい国の指導者達の意志だけです。そして、私は、今日ここにお集まりの皆様全員に、私達が個人個人として、そして、総体として持っている潜在的な力を認識し、世界中の何十億の人々に影響を与えるべくとにかく行動を起こしていただくことをお願いしたいと思います。

結び

私の話の最後に、ミレニアム開発目標の土台であるミレニアム宣言から引用させていただきます。そこには次のように書かれています；

“いかなる個人も、いかなる国も、開発から利益を得る機会を否定されてはならない。平等な権利と機会が確保されねばならない。男性も女性も尊厳を持って飢えることなく暴力と圧迫と不正の恐怖もなく生きる権利を持っている。”

－2010 年、国連ミレニアム宣言

仏陀ははるか昔に同じことをもっと少ない言葉で語られました。

“自分が嫌だと思ふようなやり方で他の人々を扱ってはならない。”

ブッダ、ウダーナ・ヴァルガ(感興のことば) 5.18

この重要な会議が大きな成功を収めますようお祈り致します。ご静聴ありがとうございました。

第8回国連ウェーサク祭でのスピーチ

則竹 秀南

臨濟宗妙心寺派靈雲院老師

ご紹介いただいた私は、京都妙心寺靈雲院住持、並びに靈雲院国際禅友好交流協会会長 則竹秀南です。先ず、国王陛下の御生誕84才の御祝いを申し上げます。



毎年マハチュラロンコーン大学学長タマコサジャーン博士のご招待をうけ、今年もこのように約85か国の高僧及び佛教徒の皆様にお会いできて光栄であります。

ご承知の通り、去る3月11日 東日本大震災が発生し、死者・行方不明者あわせて2万5千数百人、多くの人々が避難生活をし、加えて原発事故も発生して、今、日本は大きな国難を受けています。この時に世界各国からの格別な精神的、物質的支援を頂き、佛教徒の皆様からは慰霊法要を各地で厳修して下さい、日本国の一人として心より感謝の御礼を申し上げます。

被災された人々の不屈の精神と忍耐強さと、日本国民の復興への団結の固さに加えて、世界各国の皆様の強力な支援で、必ずや見事に復興できると確信しております。

日本は風光明媚な自然と調和された国であります。

今、世界の皆様が御心配なされておられる程、ごく局部地域は別として、放射能の危険性はありませんので、是非とも以前と同様に足を運んで下さいますようお願い致します。

さて、今年1月下旬2日間、この大学のこの場所で日本の坐禅会が開催され、私はその指導者として、約60名の人々と坐禅をしました。参加した人は、私の話をよく聞き静寂の中で引き締まった有意義な坐禅会でした。それはかつて、釈迦牟尼を囲んで多くの弟子が安居されたことをしのばせるものでした。そして、自己本来の持つ清浄な心境に徹することでした。そこから実はその人に具わった徳の光が輝き出て、和の心の輪が次第に大きくなりました。

振り返って科学万能の現代、その思想と行動の先端を走る国を先進国と云って、日本もその中に入って突っ走って来ました。都会は不夜城の如くこうこうと輝き、人間は適温の中で日々生活し、何の不便も感じない高度な豊かな快適な生活でした。

その科学万能な生活、人間のおごりをたたきつぶしたのが、今回の大震災と津波と、それに伴う原発事故をはじめ、二次、三次の災害でした。

大地は裂け、地盤は沈下し、津波は美しい浜辺、草木、人家、田園を一呑みにしました。原子力は悪魔と化したのです。人々は目に見えない放射能に不安を感じ、汚染された地域は立入禁止、その地域での野菜、魚等は食べることが禁じられました。

電力は不足し、電車で30分で行けるところを4時間もかかったと云うことも起こりました。自らの足に頼

らざるを得なくなったのです。今や原子力でなく、原始力の時代であります。人類が内に秘めたる佛の智慧による行動であり、自由な働きであります。茲において、自己本来の人間性、徳の偉大さを認識すべき時にぶち当たっています。

「 足るを知る」この釈迦牟尼の教えを、私達日本の僧侶は過去どれ程民衆に説いて来たことでしょうか。しかし、人々は尊い教えと知り乍ら、つい自己の欲望に負けて、この教えを実行することを忘れていました。今、東京を中心として、日本は節電を訴え、少しでも無駄のない電力の消費を実行しています。この様な大災害に出会わないと気がつかないのが、やはり私達凡夫なのでしょう。同じく目に見えないが放射能は人類に害を与えます。徳光は人類に益を、慈悲、利を与えるものです。

私達は自己の内に秘めたる徳光をもって人類共存の和の精神で、互いに助け合い、足るを知って、以って世界平和に寄与したいものです。